

請テ府ニ入ル、其醜陋ヲ疑テ、工ニ命ジテ磨治セシム、初メ幽隱ナリ、一磨ヲ經テ、大悲像鮮明嚴好ナリ、平帥悔謝シテ作禮ス、後ニ寧一山記作ルトアリ、

〔法隆寺伽藍緣起并流記資財帳〕合白銅鏡陸面 丈六分肆面 貳面一徑一尺五寸五分、并裏海磯形、一徑一

右、天平八年歲次丙子二月廿二、納賜平城宮皇后宮者、 壹面花形裏九寸八分、 右、天平八年

歲次丙子二月廿二日、納無漏王者、 壹面徑九寸七分、 右、納圓方王者、 佛分壹面徑四寸八

形、 塔分一面徑五寸八分、裏禽獸形、

〔拾遺和歌集賀五〕鏡いさせ侍りけるうらに、鶴のかたをいつけさせ侍て、 伊勢

ちとせとも何かいのらむうらにすむたづのうへをぞ見るべかりける

〔散木弃詞集戀〕ますかゝみうらつたひするかさ、ぎに心かろさの程をみるかな○詞書略

〔淵鑑類函三百八十〕鏡二 神異經云、昔有夫婦將別、破鏡、人執半以爲信、其妻忽與人通、其鏡化鵲

飛至夫前、其夫乃知之、後人因鑄鏡爲鵲背上也、

〔信明集〕かゝみかりてかへすとて、玄きのしたにかきつく男、

曉のわかれををしのかゝみかもおもかげにのみ人のみゆらむ

〔賀茂保憲女集〕ひをのかへし

玉くしげかゝみのうらにすむ千鳥おぼつかなみにとぶくとゆく

〔新編鎌倉志三上〕建長寺

圓鑑○中略 後ニ、水中ニ三日月ノ影、逆ニ鑄付、其高サ半分バカリアリ、上ニ梅ノ枝ヲ鑄付タリ、

〔橘庵漫筆二編三〕鏡の裏面に、南天燭を鑄付ることは、其明かならむ理を象り表せり、南は離にし

て、離は麗なり、明なり、三卦象如此し、天は乾なり、明貴なり、三卦象如斯、美也、明也、燭また火の用に

して離なり、いづれも明に貴く、麗く、美しき象なり、よつて鏡の裏に鑄付けたり、